

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1109

講演題目：Ca 溶脱に伴う吸着性能変化を考慮した混合セメント硬化体の物質移動予測モデルの構築

誤	正
<p>2 ページ目 右段 上から 11 行目</p> <p>Buil, M.et al. : A Model of tlrc Attack of Pure Water or Under Saturated Lime Solution on Cement, ASTM STP 1123, pp. 227-241 (1992)</p>	<p>Buil M.et al. : A Model of the Attack of Pure Water or Undersaturated Lime Solution on Cement, ASTM STP 1123, pp. 227-241 (1992)</p>

以 上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1111

講演題目：Ca/Si 比が C-S-H の構造変化及びそれが多種イオンの吸着による  
表面電荷に及ぼす影響

誤	正
<p>2 ページ目 右段 上から 22 行目から 24 行目</p> <p>H'el'ene Viallis-Terrisse et al.: Zeta-potential study of calcium silicate hydrates interacting with alkaline cations, Journal of Colloid and Interface Science 244, pp.58-65 (2001)</p>	<p>4) H'el'ene Viallis-Terrisse et al.: Zeta-potential study of calcium silicate hydrates interacting with alkaline cations, Journal of Colloid and Interface Science 244, pp.58-65 (2001)</p>

以 上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1201

講演題目：エーライトの初期水和反応に及ぼす  $\text{CaCl}_2$  の影響

誤	正
<p>1 ページ目 右段 2. 2 実験方法 (2) <math>^{29}\text{MAS}</math> NMR</p> <p>緩和時間を 1 (s) として...</p>	<p>待ち時間を 1 (s) として...</p>
<p>1 ページ目 右段 表 1</p> <p>本実験に使用した <math>\text{C}_3\text{S}</math> の鉍物組成</p>	<p>本実験に使用した <math>\text{C}_3\text{S}</math> の鉍物組成 <u>(%)</u></p>
<p>2 ページ目 左段 3. 実験結果 3. 1 塩化カルシウム添加系の液相分析</p> <p>Si は <math>\text{C}_3\text{S}</math> の粒子表面もしくはその近傍に...</p>	<p>Si は <math>\text{C}_3\text{S}</math> の粒子表面もしくはその近傍に...</p>
<p>2 ページ 左段 3. 実験結果 3. 1 塩化カルシウム添加系の液相分析</p> <p>既報で服部らが示した XRD-NMR 法により、...</p>	<p>既報で服部らが示した XRD-NMR 法により ⑥、...</p> <p>[参考文献] ⑥ 服部廉太ら：C-S-H 形成過程における intermediate phase の定量および <math>\text{C}_3\text{S}</math> 水和 反応解析への応用 (2011)</p>

以 上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1214

講演題目：AFMによるサファイア表面に吸着したグラフトポリマーの形態観察

誤				正				
1 ページ目 所属先 4 人目 北海道大学 大学院工学院				北海道大学 大学院工学研究院				
2 ページ目 右側 表 2								
	側鎖間隔 $s$ [nm]	吸着層厚さ $L$ [nm]	PC1分子の 占有面積 $A$ [nm <sup>2</sup> ]		側鎖間隔 $s$ [nm]	吸着層厚さ $L$ [nm]	PC1分子の 占有面積 $A$ [nm <sup>2</sup> ]	
	PEG-9	1.4	2.8	27.2	PEG-9	1.5	2.7	32.9
	PEG-45	2.1	5.4	58.9	PEG-45	3.2	5.3	66.6

以 上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1220

講演題目：フレッシュモルタルの流動勾配に及ぼす配筋条件および型枠幅の影響に関する基礎的研究

誤	正
1 ページ目 左段 2.実験概要  FL□ (計 4 か所)	FL <sub>0</sub>

以 上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：2202

講演題目：膨張材と中空微小球を併用したフライアッシュコンクリートの収縮低減効果とスケーリング抵抗性

誤	正
1 ページ目 左段 上から 32 行目 シリコン系系消泡剤	シリコン系消泡剤

以 上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：2210

講演題目：Mesoscale examination of the short-term behavior of mortar subjected to surface re-curing after high temperature exposure

誤	正
2 ページ目 左段 上から 18 行目 Fig. 4	Fig. 3
2 ページ目 左段 上から 26 行目 Fig. 5	Fig. 4
2 ページ目 右段 Figure 4	Figure 3
2 ページ目 右段 Figure 5	Figure 4

以 上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3114

講演題目：Durability optimization of functionally gradient SHCC for chloride ingress under cracking

誤	正
Table 1：“Strain”の単位 [-]（2箇所）	Table 1：“Strain”の単位 [%]（2箇所）

以上



## 第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3210

講演題目：海洋環境下に 10 年暴露したシラスを細骨材としたコンクリートの塩害抵抗性

誤	正
1 ページ目 左段 上から 14 行目 う実験に使用したコンクリートの示方配合を表 1 に示	実験に使用したコンクリートの示方配合を表 1 に示
2 ページ目 右段 下から 24 行目 れぞれコンクリート標準示方書 <sup>2)</sup> の提案式と	れぞれコンクリート標準示方書 <sup>2)</sup> の提案式と

以 上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3215

講演題目：膨張材を混和したコンクリートのアルカリシリカ反応の特徴と  
フライアッシュによる抑制効果

誤	正
2 ページ目 右段 下から 12 行目 4. 4. まとめ	4. まとめ

以上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3218

講演題目：反応性骨材と遅延性骨材を用いた ASR ゲルのキャラクターゼーション及び生成物の予測

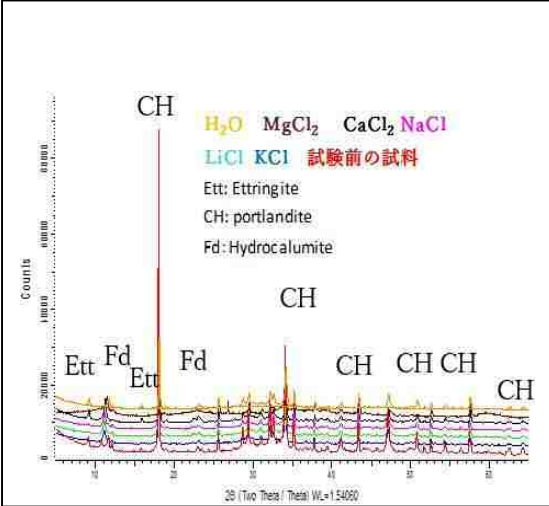
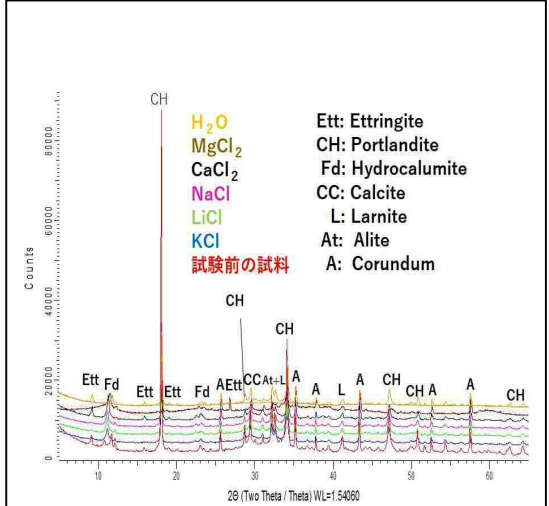
誤	正
<p>1 ページ目 上から 5 行目</p> <p>北海道大学 工学研究院 環境循環システム部門 Baingam Lalita</p>	<p>北海道大学 工学院 環境循環システム専攻 Lalita Baingam</p>
<p>2 ページ目 図 1</p>	

以上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3304

講演題目：セメントペーストにおける鉛の吸脱着特性に対する接触溶液の影響

誤	正
<p>2 ページ目 左段 上から 22 行目</p> <p>本研究での吸着等温線と共に図 4 に示す。</p>	<p>本研究での吸着等温線と共に図 5 に示す。</p>
<p>2 ページ目 図 4</p>  <p>Figure 4 shows XRD patterns for test solutions: H<sub>2</sub>O, MgCl<sub>2</sub>, CaCl<sub>2</sub>, NaCl, LiCl, and KCl. The legend identifies peaks for Ettringite (Ett), Portlandite (CH), and Hydrocalumite (Fd). The x-axis is 2θ (Two Theta / Theta) in degrees, ranging from 10 to 60. The y-axis is Counts, ranging from 0 to 80000.</p>	 <p>Figure 5 shows XRD patterns for test solutions: H<sub>2</sub>O, MgCl<sub>2</sub>, CaCl<sub>2</sub>, NaCl, LiCl, and KCl. The legend identifies peaks for Ettringite (Ett), Portlandite (CH), Hydrocalumite (Fd), Calcite (CC), Larnite (L), Alite (At), and Corundum (A). The x-axis is 2θ (Two Theta / Theta) in degrees, ranging from 10 to 60. The y-axis is Counts, ranging from 0 to 80000.</p>

以 上

第 71 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3305

講演題目：セメント硬化体における鉛の吸着特性に対する pH の影響

誤	正
1 ページ目 左段 下から 4 行目 1 ページ目 右段 上から 10 行目 1 ページ目 右段 上から 11 行目  □	II
1 ページ目 右段 上から 3 行目  pH	pH

以 上